

21世紀COEと病院の関係

名和田, 新
九州大学大学院医学研究院病態制御内科学

<https://doi.org/10.15017/19240>

出版情報：福岡醫學雑誌. 95 (10), pp.253-253, 2004-10-25. 福岡医学会
バージョン：
権利関係：

特集：九州大学病院統合1周年記念企画

21世紀 COE と病院の関係

九州大学大学院医学研究院 病態制御内科学
名 和 田 新

糖尿病を中心に肥満、高脂血症、高血圧、骨粗鬆症等の「生活習慣病」は相乗的に作用して血管病（脳卒中、心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症）、ガン、骨折を発症進展させます。これらの疾患は日本人の死因および寝たきりの70%および90%を占め、その病態解明と克服は高齢化社会において活力ある我が国の創出の為の国家的な課題です。

生活習慣病は複数の遺伝因子と環境因子の相互作用によって発症し、加齢に伴って増加する多因子疾患です。

それ故、生活習慣病の克服には、長期間にわたる疫学臨床データが重要で、その臨床成績に基づき、日本人に特有の発症機序・病態を解明し、それに根ざした予防法・治療法を開発する事が極めて重要です。

21世紀 COE プログラムにおいて、生活習慣病研究教育の拠点として選ばれた本学では、九州大学ゲノム疫学情報センターを設置し、共通した生活習慣病の臨床情報データベースおよびゲノム情報データベースを構築し、その中に九州大学 COE コホートの5万人の登録を目指しています。疾患感受性遺伝子、薬剤感受性遺伝子を同定し、そのSNPSの同定を行い機能解析を行い、このデータベースの中で疾患との相関関係を明らかにし、それを標的とした創薬を開発します。

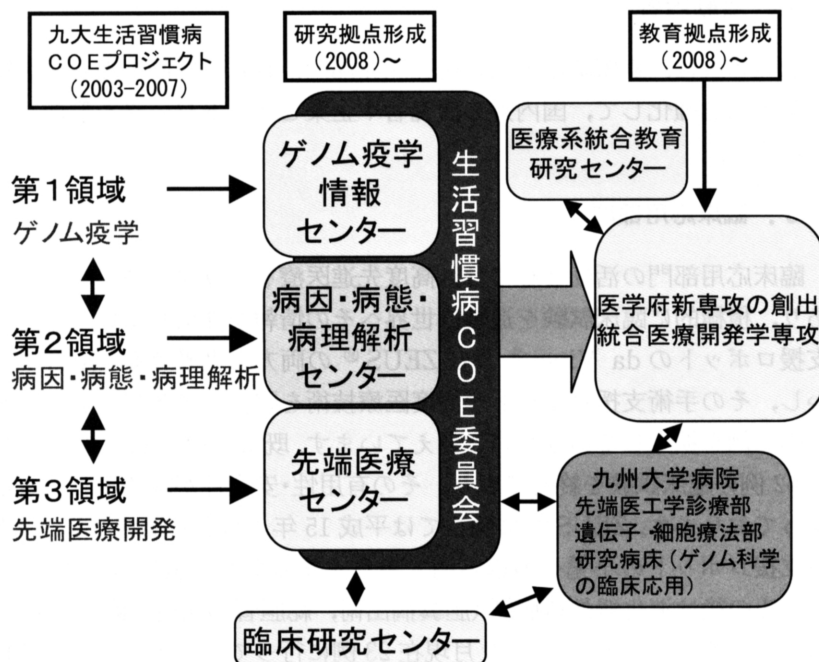
今後、生活習慣病 COE 委員会のもとに、ゲノム疫学情報センター、病因・病態・病理解析センター、先端医療センターを設置します。

創薬が開発されれば、知的財産として臨床研究センターの中で医師主導型の治験を行い、九州大学病院の研究病床においてゲノム科学の臨床応用としてゲノムよりの予防および創薬のテーラーメイド医療を目指しています。

更に九州大学病院に設置されている遺伝子・細胞療法部や先端医工学診療部と有機的に連携し、新しい先端医療および細胞再生医療を目指して行きます。

今後九州大学病院との密接な連携が益々重要になります。

九州大学生生活習慣病 COE プロジェクトの具体的な将来像



Hajime NAWATA

Department of Medicine and Bioregulatory Science, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University

Correlation between 21st Century COE of Center for Frontier Research Education on Lifestyle-Related Disease based on the Large-scale Cohort Study and Kyushu University hospital